

## 令和元年度 椎葉村立尾向小学校 自己評価・学校関係者評価書

4段階評価

4：大変よく取り組んでいる

3：よく取り組んでいる

2：少し改善が必要

1：改善を要する

評価項目	評価指標	学校の自己評価結果考察及び今後の方策	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価コメント
1 学力の 向上	① 子どもたちにとって分かりやすい授業となるような工夫がなされている。	○ 昨年度に引き続き、「4+4のチェックポイント」の活用と「複式指導の工夫」を通して、授業改善を行ってきた。次年度も、児童の実態を的確に把握し、実態に合った指導方法を展開しながら学力向上を図っていく。	3.1	3.3	○ 毎回、様々な取り組みをしていただき、ありがたい。 ○ 授業を参観していて、複式の授業は大変だと感じるが、先生方はよく頑張っている。ガイド学習の更なる充実を図っていただきたい。
	② 授業中の子どもたちの姿勢は的確に指導されており、子どもたちはよい姿勢で授業に参加している。	○ 立腰指導は継続して行っているため、全体的に姿勢はよいと感じる。しかし、一部の児童は声かけが必要なので、今後も繰り返し指導していく必要がある。	2.6	3.3	
	③ 子どもたちの読書活動を推進するための手だてがなされている。	○ 読書活動推進で少し改善の必要があると思われる。本は借りるけれど、家庭では読まなかったり、マンガや図鑑といった類が多かったりするのも原因の一つと思われる。面白い本の紹介や、授業での活用を図るなど、手立てを工夫していきたい。	3.0	3.3	○ 家庭では、本を読んでいる姿を見かけることが多い。 ○ 次年度は、村の図書館もできるので、ぜひ活用を図っていただきたい。
	④ 「暗唱指導」は子どもたちのやる気、自信につながっている。	○ 毎月課される詩歌の暗唱であるが、児童は意欲的に取り組んでいる。校長による試験に合格した時の達成感、児童の自信につながっている。	3.5	3.5	
	⑤ 家庭学習の課題の与え方は的確で、子どもたちは毎日欠かさず取り組んでいる。	○ 宿題の与え方で、意見が出されている。担任同士が情報を共有して、大きな差がないようにしているが、行事が多い尾向小であるから、その点も勘案した宿題の量が必要である。	2.9	3.4	○ 行事などがあるときの宿題の出し方（量）を考えてほしい。
2 心の教育 の充実	⑥ 子どもたちのあいさつに関する指導は的確で、子どもたちのあいさつもよい。	○ 自分から進んであいさつをするという点で、改善が必要な状況が見られる。また、職員のあいさつについても、意見が出ている。笑顔でさわやかなあいさつを心がけたい。	2.8	3.2	○ 学校内ではあいさつはできていると思うが、学校外では、あいさつができない児童も多い。スポーツの大会の時も、他の学校の児童や大人にあいさつをしていない。
	⑦ 子どもたちの返事は「はいっ」と元気よくできている。	○ 特に教職員の評価が低い。返事には個人差がある。授業中、しっかりできる児童をお手本にして、低学年のうちから指導を徹底していく。	2.4	3.4	○ 家庭や地域では返事をしないことも多い。継続して指導していただきたい。
	⑧ 子どもたちの学級の雰囲気は明るく、楽しそうに過ごしている。	○ Q-Uの客観的なデータを日常の学級経営に生かすことが難しかったが、児童の実態を職員間で共有し、全員で声かけをしていくことで、児童の悩みや不安を引き出すことができた。	3.3	3.5	○ 子どもたちは楽しく過ごせていることがよく分かる。

評価項目	評価指標	学校の自己評価結果考察及び今後の方策	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価コメント
3 健康・安全 の充実	⑨ 体づくりチャレンジする場や時間を設定し、日常的に体力向上に取り組む指導がされている。	○ 毎日行っていた朝のボランティアを水・金にしたことで、始業前に体を動かす児童が増えた。次年度も継続していく。	2.5	3.5	○ 子どもたちは元気よく運動場で遊んでいる姿を見かける。今後も遊びやスポーツ少年団活動を通して、体力の向上を図っていただきたい。
	⑩ ラジオ体操の日常化は、子どもたちの体力向上につながっている。	○ ラジオ体操と夢織ストレッチは校時程に明確に位置付け、習慣化を図っていく。 ○ 体育館に作った体力向上のための仕掛けを児童がどの程度活用しているかを把握し、手立てを講じていくことが必要である。	2.4	3.5	
	⑪ 保健や食育に関することについて、保護者への情報の発信がなされている。	○ 階段掲示板や保健便り等を活用して、情報発信を心がけている。次年度も児童や保護者に寄り添った情報提供を心がける。	3.0	3.5	○ 学校保健委員会での歯みがきの指導は分かりやすかった。家庭でも、しっかりと取り組んでいきたい。
4 家庭・地域 との連携	⑫ 職員の電話や来客への対応や挨拶等は的確である。	○ どんな時でも、自分からあいさつすることを意識した対応を心がける。	3.8	3.5	○ 路上で出会っても、車を停めて窓を開けてあいさつしてくれる先生方もいて、感心させられる。
	⑬ 学級や学校は必要な情報を家庭に発信している。	○ 学級通信は、各学級とも定期的に発行し、情報発信に努めることができた。 ○ 学校ホームページを毎日のように更新し、学校の様子の情報発信ができた。	3.6	3.5	○ ホームページを見るのが楽しみだ。 ○ 運動会では、公民館と合同で行っていただいているが、鼓笛をはじめとしてとても頑張っている子どもたちに元気をもらえた。

#### ❖ 本年度の成果と次年度の方向性

- ガイド学習の充実を望む声がある。自分たちで学び合いながら授業を進めていける力を付けさせたい。
- 暗唱指導は、本校の課題の一つである語彙力を育む上でも効果的である。次年度も引き続き取り組んでいく。
- あいさつは全体的によくなっているが、次年度は焦点を絞って、登校中の「大きな声であいさつ」の意識を高める必要がある。
- 子どもたちの指導については、頭ごなしに叱るのではなく、叱られている理由を子どもが分かるように、指導者側も気をつけるようにしたい。
- アレルギー対応については、保護者の意向を聞くと共に、職員研修を行い、よりよい体制づくりをしていかななくてはならない。また、児童にどのように理解させていくかについても、慎重に検討したい。
- 情報発信の手段として、マチコミメールの活用が図られた。次年度もこまめに情報を発信していく。
- 上記の項目以外として、学校行事の多さに関する意見がいくつか出された。行事の多さが児童や保護者、職員の負担になっていないかというものである。次年度以降は、教育課程を編成していく中で、精選できるものと残していくものとの仕分けを積極的に行い、負担の軽減を図っていく。
- 学校行事（特に運動会や焼畑体験学習）では、公民館や青年団の方々に協力をいただきながら充実した活動にすることができた。キャリア教育の視点からもとても有意義である。次年度も、協力をいただきながら進めていきたい。